

「道の駅」に関する公開質問の記録

ぬま健司の質問 (3月6日)	田辺一城市長の回答 (3月27日)	備考
①以下の趣旨で間違いないか。 (平成31年度予算に「道の駅整備事業費」が計上された理由についての答弁趣旨)「道の駅」を実施するかどうかの判断時期は平成31年度になること、もしやると判断した時に予算がなければ実施が遅れる、予算を計上しておけばスムーズに実施できる。	間違いない。	
②「道の駅」について2018年5月15日の庁議で当時の中村市長の判断で候補地を1ヶ所に選定したことを認識しているか。その決定を継承するのか。	候補地選定の経緯は承知している。その決定の延長で現在検討を進めている。	前市長の候補地決定を前提としていることを認めた。
③市長は「道の駅」についてやるかやらないかはまだ決定していないと答弁した。しかし、平成31年度予算案に「道の駅整備事業」が盛り込まれ、説明書によると「道の駅の整備に向けた測量・調査・設計を行う」と明記されている。市長は予算編成に当たり市長査定でこれを認めていると思う。やるかやらないかは決定していないという答弁と矛盾すると思うがどう説明するか。	道の駅の整備を進めることの最終意思決定は行っていない前提で当初予算案に計上した。このことは議会にも説明を尽くし、最終的には3月27日の本会議において可決いただいた。	最終意思決定をしていない事業に関する予算計上は問題ないことを認めている。議会のチェック能力も問われる。
④議場で答弁したように「もしやると決定した場合に速やかに事業を進められる」という説明は予算編成ではありえない説明だ。市長がやるかどうか決めていない事業を予算計上することは認められないはずだ。もしやると決定したなら、補正予算を提案すべきであると考え。どう釈明するか。	当初予算案に計上した意図は議会にも説明を尽くし、最終的には3月27日の本会議において可決いただいた。	本来は意思決定をした段階で補正予算を提出すべきである。
⑤「道の駅」の判断根拠に対話集会をあげている。3月9日の対話集会はゼロベースの対話集会か。それとも事業を進めるために理解を求める説明会か。	対話集会は、私が市長に就任してから、道の駅の検討状況について市民の皆様と情報を共有し、様々なご意見をい	ゼロベースなのかどうかについては回答していない。

	<p>ただ場が必要と判断し、開催した。今後もさらに開催することとしており、市民の皆様のご意見や財政状況等も踏まえ、最終的には市長として意思決定を行いたいと考えている。</p>	
<p>⑥昨年 5 月の庁議で選定された候補地の場合の総事業費は約 12 億円で市の実質負担は約 8 億円と説明された。この財政投資と将来の財政状況への影響についてどう認識しているか。対話集会ではこの点も説明するか。</p>	<p>財政状況への影響は少なからずあると認識している。事業費の想定も含め、対話集会で説明した。</p>	<p>基本計画案で示されるであろう財政規模は公表すべきである。対話集会では説明になっていない。</p>
<p>⑦前市長は候補地選定の根拠として、コンサルの観光拠点設置可能性調査結果を吟味したと答弁した。担当課からの伺い書(公文書)は無いと認めた。3月中旬に「道の駅基本計画」コンサルから提出される予定だがどのように扱い検討する予定か。前市長と同じようにコンサルの成果物を吟味して市長判断で結論を出すのか。</p>	<p>コンサルタントの成果物は重要な判断材料として精査する。市民の皆様のご意見や財政状況等も踏まえ、最終的には市長として意思決定を行いたいと考えている。</p>	<p>コンサルの成果物を担当課が精査し、伺い書としてあげるべきである。意思決定のプロセスが明確ではない。</p>